

「魔」は道にらず人にあり

奈良県警察高速隊長
喜多 良樹

奈良県には、「ひと雨10件」という言葉にぴったりの道路があります。その道路は「一般国道25号・通称名阪国道」です。別名「魔の道」とも呼ばれています。この道路は、両端を東名阪自動車道と西名阪自動車道に直結し、名古屋と大阪を最短で結ぶ大動脈として重要な役割を担う道路です。

交通量も多く、また県内ルートは山岳部の大和高原から平坦な大和平野へ一気にかけ降りるため、インター間(延長11キロ間)で約414メートルの高低差が生じ、Ω(オメガ)カーブと称する急カーブ等が連続する道路となっています。そのため、事故はこの区間で多発し、その件数は名阪国道全体で発生する事故の約60%を占めます。

事故の多くがスリップによる単独事故で、特に雨の日にその傾向が顕著になります。「魔の道」と呼ばれる所以はここにあります。

「魔の道」とは「道が悪く事故が多い」という例えですが、本当に道が悪くて事故が多発しているのでしょうか。正直に言うと、そうではないと思っています。確かに急カーブ等は事故の一因になるでしょうが、どちらかと言えば主たる事故の原因はドライバー側にあり、「魔」は名阪国道ではなく人に潜んでいると考えているところです。

雨の日、高速隊では、事故多発区間にパトカーを集中投入し、ペースカーとして速度抑制を行い事故防止を図っています。しかし、ドライバーの中には、道路や気象状況に応じた走り方をしない人が多く、それを表すかのように事故を起こした人からは、「雨でスリップ事故を起こすとは思わなかった」、「運転に自信があったので雨でも大丈夫と思い、いつもの調子で走った」等との話をよく聞きます。

事故を他人事と考え、また自分の腕を過信しているドライバーが意外にも多いことに驚ろかされます。「魔」はやはり、道ではなく、ドライバー一人ひとりの心の中で「油断」や「過信」という形に姿を変えて潜んでいるのです。

まもなく梅雨の季節、名阪国道における事故は高速道路における事故同様に重大事故に繋がります。名阪国道を走るドライバーのみなさん、「魔は道にらず人にあり」ということを今一度再認識していただき、油断や過信等をする事なく、余裕を持った運転を心がけて下さい。特に雨の日は速度を落とし、車間距離を十分に取り安全運転に努めて下さい。

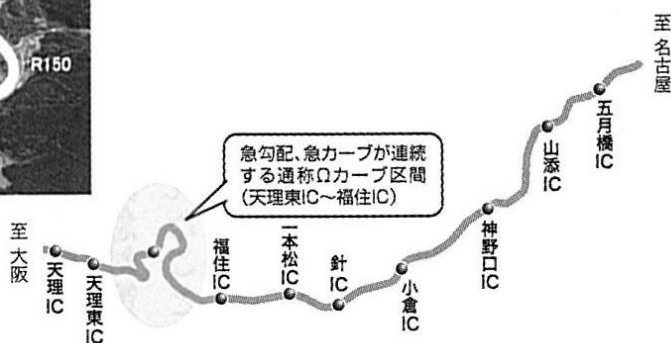
追記

今年は、「奈良・平城京」が誕生して1300年の節目を迎え、奈良県では、各地で様々な記念イベントが展開されます。奈良の奥深い歴史・文化を知っていただくうえで絶好の機会です。是非ともお越し下さい。なお来県の際は電車、バス等の公共交通機関をご利用下さい。



名阪国道Ωカーブ区間の撮影

奈良新聞社からの提供



※ この記事は、奈良県警察本部高速道路交通警察隊ならびに(財)全日本交通安全協会様のご好意により、Safety Express 6月号から当協会のHPに掲載させていただいております。